



災害時要援護者の避難支援、避難生活支援セミナー 開催要項 - 市民協働による地域防災力の向上 -

- 1 目的 予測が難しい自然災害に対して、日常の備えと、いざ発生した時の対応力を身につけるには、日頃から地域のさまざまな関係者が協力・連携することが大切です。要援護者支援でもなおさらのこと。そのためには、平時より、さまざまなコミュニティが絆を形成し、リスクに関する情報を共有し、課題解決力を育てるリスクコミュニケーションを推進することが重要となります。
- 今回のセミナーでは、個人や地域コミュニティの防災力を高める技術や社会のしくみを研究開発してきた防災科学技術研究所より講師をお招きし、地域の絆と地域の防災力向上をめぐる課題の整理をしたあと、この分野で先進的に取り組んでこられた地域の事例等の検証を通して、我が町の地域協働や当事者が参画する地域防災の取り組みをめざす契機とします
- 2 日時 ~~平成23年3月25日(金) 13:00~16:00~~
- 3 場所 [ウィルあいち 愛知県女性総合センター](#) 1F セミナールーム(1, 2)
〒461-0016 名古屋市東区上笠杉町1番地 TEL 052-962-2511
- 4 参加費 無料
- 5 定員 80名(先着)
- 6 参加対象 自治体消防・防災関係者、保健福祉関係者、社協関係者、地方議会議員、障害当事者団体、災害ボランティア、福祉サービス事業者など
TEL 052-962-2511

7 内容(予定)

時間	内容
13:00~13:05	主催者挨拶・趣旨説明
13:05~14:05	講演「平時の絆がはぐくむ地域防災力」(仮題) 防災科学技術研究所 長坂俊成 先生
14:05~14:15	休憩
14:15~15:45	パネルディスカッション 「地域の絆と地域の防災力向上をめざして」(仮題) つくば市社会福祉協議会 地域福祉グループ長 荻谷由紀子 氏 藤沢市六会地区地域経営会議委員 堀千鶴 氏 (NPOくらし・環境再生ネットワーク理事) * コメンテーター 長坂俊成先生 * 進行 AJU自立の家 水谷 真
15:45~15:55	質疑応答
15:55~16:00	閉会挨拶

- 8 主催 社会福祉法人AJU自立の家
- 9 後援(予定) 愛知県、名古屋市、愛知県社会福祉協議会、名古屋市社会福祉協議会

問い合わせ 社会福祉法人AJU自立の家

わだちコンピュータハウス 防災企画グループ 菅沼・須藤・今井貞
TEL: 052-841-9888 FAX: 052-841-1015 Mail: bousai@aju-cil.com

講師プロフィール (敬称略)

長坂俊成(ながさかとしなり)

1962 年生まれ、87 年中央大学法学部政治学科卒業

1999 年筑波大学大学院経営政策科学研究科修了

2000 年慶應義塾大学大学院政策メディア研究科助教授(特別研究)

2004 年防災科学技術研究所総合防災研究部門主任研究員

2006 年から現職。

災害リスクガバナンスや e コミュニティプラットフォーム(地域社会の情報共有や協働を支える社会的な情報基盤)を活用した新たなコミュニティ形成などに関する研究に取り組んでいる。



つくば市社会福祉協議会

「自助と共助を考える災害対応事業」

筑波山麓に位置する筑波小学校区を対象に、つくば市社会福祉協議会が主催した事業。防災科研、つくば市、市民ボランティア団体、学校関係者、地域住民らが協働して、「災害対応シナリオづくり」と「防災マップづくり」を実施。地域防災訓練では、住民自らの避難対応と避難所運営を中心に、要援護者の安否確認と支援、災害ボランティアセンターの設置などが行われた。

藤沢市六会天神町

「シナリオ型防災ワークショップ」とラジオドラマづくり

藤沢市六会地区は市内に 13 ある行政区のひとつ。地区内の天神町の自治会や自主防災会の主催で、関東大震災の再来といわれる「南関東地震(M8 規模)」を想定したシナリオ型防災ワークショップを実施。

ワークショップでは、地域の災害特性、住民特性(年齢分布や防災資源など)のデータを用いて議論。夜間人口の平均年齢は 45 歳だが、昼間人口は 54 歳と高齢化率が高くなり、独居になってしまう高齢者が多いことや、平日昼間に災害が起きた場合、高齢者や子どもの安否確認や地域での連携が課題であることも認識。人的・物的両面から町の防災資源の現状を理解した。

また、「冬の平日午前 10 時に震度 6 の地震」を想定し、「連絡網を生かした地域の安否確認」「災害時要援護者の地域支援」「地域のボランティアとの連携」の 3 つの状況とその対応策について検討した。

